

小学校の歌唱指導で活かせる簡易伴奏法の研究- II

～カノン・コードを用いた歌唱共通教材の簡易伴奏～

成川ひとみ・津嘉山朝弓*¹

A Study on a Simple Piano Accompaniment for the Instruction of Singing at Elementary School

NARUKAWA Hitomi, SUKAYAMA Asami*¹

(Received January 5, 2017)

キーワード：小学校、音楽、歌唱伴奏、簡易伴奏法

はじめに

教員免許更新講習で、これまで筆者は選択科目として、歌唱指導の簡易伴奏法をテーマに講習を行ってきた。簡易伴奏法を習得しておくことで、学校現場の先生方は、歌唱指導に際して伴奏楽譜の練習に特別な時間を費やすことなく、ピアノ伴奏を「生演奏」する事ができる。既製の伴奏CDではない「生演奏」の伴奏は、子どもたちの歌唱力や状況の変化に対応するのが可能な伴奏であり、技能的にも情緒や音楽を愛する心を育む上でも有効であることは、言うまでも無い。

講習の際には先ず、鍵盤和声の基礎を習得していただいている。つまり、I (T)、V (D)、IV (S) によるカデンツの基本をしっかりと身につける、立ち止まって考えることなく左手が自然に和音を繋いで演奏できるまで、練習することをお奨めしている。

実際、楽曲が転調を含まない限り、この3種類の和音による基本のカデンツで、ほぼ全て伴奏付けが可能である。しかしながら、基本が身に付けば、次ぎのステップへ上りたくなるのが人間の常であり、講習でも受講の先生方から「シャレた和音も使いたい」との要望の声を、毎回のよう頂戴した。

基本の3和音に加える和音としては、II、III、VIと言った短三和音、転調へのきっかけとなる借用和音等が考えられるが、加えた事によりカデンツを成立させる難度が上がるのは否めない。和音の繋ぎ方に多様性が増すので、「迷子になって出口への行き方が分からない」状態に陥るのである。

そこで今回は、短三和音を加えた和音の繋ぎ方で、汎用性の広いパターンを一つ、提案させていただくことにした。そして、その用い方を実際にお示ししたい。

1. 「カノン・コード」

1-1 「カノン・コード」の可能性に気付いたきっかけ

ある時、ふと目に留まったアカペラグループ「RAG FAIR」の音楽コントがあった。それは「Let It Be」(The Beatles) をアカペラで演奏している場面に、一人だけ「大きな古時計」を歌っている人が紛れ込んでいるというもので、異なる二曲が違和感無く重なっていた。

この演奏では「Let It Be」と「大きな古時計」のどちらも「同じコード進行」での伴奏が可能のために、2曲を違和感なく重ねることが出来ていたのだ。ここでの「同じコード進行」とは一般的に「カノンコード」と呼ばれているものであった。

*1 横浜市立川和東小学校

1-2 「カノン・コード」とは

具体的には、I-V-VI-III-IV-I-II/IV-V (-I) であり、エンドレスでの反復が可能である。

「パッヘルベルのカノン」のコードとして周知されているが、実際はバロック期のドイツの作曲家、ヨハン・パッヘルベル (Johann Pachelbel, 1653 ニュルンベルク - 1706.3.3 同地) の「3つのヴァイオリンと通奏低音のためのカノンとジグ ニ長調」の第1曲「カノン」で通奏低音として奏される部分のコード進行である。コードネームを用いて表記するのであれば、ニ長調であるから「D→A→Bm→F#m→G→D→Em/G→A」となる。

なお、この「カノン」は単純な同度カノンであり、部分によって同じ低音の上に異なる和声を響かせながら28回繰り返す構成になっていて、楽曲形式としては寧ろパッサカリアやシャコンヌと捉えるのがふさわしいかもしれない。

1-3 カノン・コードで和声付けされている楽曲一覧

カノンコードは現代のロックやポップスにおいて頻繁に用いられており、さくら (森山直太朗) や Love is (河村隆一) など枚挙に暇がない。

その他の例として上げられる楽曲：

クリスマス・イブ (山下達郎)、桜坂 (福山雅治)、世界に一つだけの花 (SMAP)、Tomorrow (岡本真夜)、チェリー (スピッツ)、木綿のハンカチーフ (太田裕美)、翼をください (村井邦彦作曲)、壊れかけの RADIO (徳永英明)、パラダイス銀河 (光GENJI)、さくらんぼ (大塚愛)、大都会 (クリスタルキング)、負けないで (ZARD)、愛は勝つ (KAN)、Let It Be (The Beatles)、ロシア国歌、等

2. 小学校歌唱共通教材を「カノン・コード」で伴奏する

2-1 カノン・コードによる伴奏の可能性一覧

小学校の歌唱共通教材、全24曲のうち、「わらべ歌」「日本古謡」は機能และ声による作品に該当しないため、カノン・コードによる伴奏が成り立たない。また短調の曲も成り立たないが、小学校歌唱共通教材に短調の楽曲は含まれない。

以下に全24曲の、カノン・コードによる伴奏が成立する可能性を一覧にまとめた。

「×」は成立が難しいもの、「△」はコード進行の一部を使用できる場合、及び非和声音の許容範囲がかなり限界に近い場面を含む曲、「○」は殆ど抵抗を感じることなくカノン・コードを使えるフレーズを含む曲、「◎」は使用可能なフレーズを複数回含む曲である。

小学校 歌唱共通教材 一覧

学年	曲名	調性	判定	学年	曲名	調性	判定
1	うみ	ト長調	△	2	かくれんぼ		×
	かたつむり	ハ長調	◎		春がきた	ハ長調	◎
	日のまる	ヘ長調	○		虫のこえ	ハ長調	△
	ひらいたひらいた		×		夕やけこやけ	ハ長調	○
3	うさぎ		×	4	さくらさくら		×
	茶つみ	ト長調	○		とんび	ハ長調	△
	春の小川	ハ長調	△		まきばの朝	ハ長調	△
	ふじ山	ハ長調	○		もみじ	ヘ長調	◎
5	こいのぼり	ヘ長調	○	6	越天楽今様		×
	子もり歌		×		おぼろ月夜	ハ長調	○
	スキーの歌	ト長調	△		ふるさと	ヘ長調	○
	冬げしき	ヘ長調	△		われは海の子	ニ長調	○

2-2 実施のための準備

「基本カデンツによる簡易伴奏」と同様に、自然な流れに乗って演奏できるように、左手が和音を自由に繋げられるまで十分に練習を行うことをお勧めする。

習得しておきたいパターンは、以下の通りである。

譜例 1

譜例 1 は、ハ長調、ト長調、ヘ長調の3つの調で示されたカノンコードの進行パターンを示しています。各調とも、①から⑩までの10個の和音が連続して示されています。①から⑦までは単純な三和音（トリアド）であり、⑧から⑩までは二和音（デュオ）として括弧で囲まれています。

2-3 カノン・コードを用いる際の注意事項

簡易伴奏にカノン・コードを用いる際に注意するポイントとして、以下の3項目を挙げたい。

- 1) 連続する8個の和音のうち、一部を変更させる応用性を考える。
- 2) 8個の和音と同じ拍数で進行するとは限らない。

そして、最も大事なポイントは

- 3) 多用し過ぎない。

カノン・コードは下降するコード進行である。そして、コード進行が上昇するか下降するかは、楽曲の緊張感の変化に大きな影響を及ぼす。原曲の器楽曲のように、上部の旋律が華麗に装飾され多様性に富む動きであれば、単純に反復される和声により表現の効果は増すと言えよう。しかし、小学校の歌唱曲では旋律はオーソドックスであり、曲の雰囲気の変化は和声に大きく影響を受ける。下降するカノン・コードが多用されると表現の雰囲気が単調になりやすく、構成感の弱い演奏になってしまうであろう。

3. 実施例

以下に、実際にカノン・コードを用いた譜例をあげる。2-3の内容も含めて、ご参照いただきたい。

3-1 「うみ」～コードの一部を使える短い曲

「うみ」の第1フレーズではカノン・コードがふさわしいと言えない。しかし第2フレーズでは終結部を一部変化させての使用が可能である。カノン・コードの使い方として、後続の3-2のように冒頭から用いてしまうと、後続するフレーズで基本のカデンツに戻るのに躊躇を感じる場合も多い。カノン・コードの使用に際しては、「うみ」のように、前半は「基本でシンプル」に、後半でカノン・コードを用いるパターンが、実際のところは望ましいと言えよう。

譜例 2

う み 文部省唱歌 / 作詞: 林 ^{はやし} 柳波 ^{りゅうは} / 作曲: 井上武士 ^{いのうえたけし}

う み は ひろ い な お お き い な つ き が の ぼ る し ひ が し ず む

I IV I V ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑨ ⑩

3-2 「ひのまる」～全面的にコードを使えるフレーズと一部を変更するフレーズ

「ひのまる」では第1フレーズは成立するが、第2フレーズは第4音で進行を変化させた方が良くと思われる。

譜例 3

日 の ま る 文部省唱歌 / 作詞: 高野辰之 ^{たかのたつゆき} / 作曲: 岡野貞一 ^{おかのていいち}

し る じ に あ か く ひ の ま る そ め て

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑨

あ あ う つ く し い に ほ ん の は た は

① ② ③ V I ④ ⑤ ⑨ ⑩

3-3 「かたつむり」～つい全面的に多用してしまうパターン

全部のフレーズに、カノン・コードが成立可能である。全てにカノン・コードを用いると、旋律の「物語性」が阻害される。

譜例 4

か た つ む り 文部省唱歌

で ン で ン む し む し か た つ む り お ま え の あ た ま は ど こ に あ る つ の だ せ や り だ せ あ た ま だ せ

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑨ ① ② ③ ④ ⑤ ⑨ ⑩ V ① ② ③ ④ ⑤ ⑨ ⑩

3-4 「夕やけこやけ」

冒頭フレーズでカノン・コードを使用した場合、第2フレーズ以降の和声進行で単純さが目立たない様に工夫をする必要がある。例として「夕やけこやけ」を取り上げる。

譜例 5

夕やけこやけ

作詞：中村雨紅 / 作曲：草川 信

ゆうやけ こやけで ひがくれ て やまの おてらの かねがなる

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑨ I (I) IV V V₇ I

お - て て つ な い で み な か え る から す と い っ し ょ に か え り ま し ょ う

IV I II V I III ③ ④ ⑤ ⑥ ⑨' ⑩

3-5 「茶つみ」

後半部分で変化をつけるために用いる例として「茶つみ」を上げる。

譜例 6

茶 つ み

文部省唱歌

な つ も ち か づ く は ち じ ゅ う は ち や の に も や ま に も わ か ば が し げ る

I (I) (I) V I (I) VI I IV ⑨

あ れ に み え る は ち ゃ つ み じ ゃ な い か あ か ね だ す き に す げ の か さ

⑩ ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑧ ⑨ ⑩ ⑤ ⑥ ⑨' ⑩

3-6 「ふるさと」

かなり高度な応用例である。

譜例 7

ふるさと 文部省唱歌 / 作詞：高野辰之^{たかのたつゆき} / 作曲：岡野貞一^{おかのていいち}

うさぎ おいしかのやま こぶなつりしかのかわ

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑧ ⑨ ⑩

② ③ ④ ⑤ ⑥ V ① ② ③ ④ ⑤ ⑨ ⑩

おわりに

カノン・コードによる伴奏の場合、旋律が非和声音になることが多い。しかし、非和声音を含むと和声の響きは複雑になり、時には印象派の音楽に近いような雰囲気醸し出すこともある。

和声の進行は、完全終止：DからTへのパターンを踏めば何とか納まるものではあるが、表現者の美意識が評価の要素となる芸術分野である以上、自らが「不快」と感じる音世界を表出して、後ろめたさを感じないスタンスは許されないであろう。

理論を頭で納得しただけでは実践が不可能なのが音楽実技の難しさである。理論を知った上で感覚で動く、動きながら更に感覚で表現の可能性を展開させていく、時間芸術ならではの醍醐味であるが、それゆえ音楽の演奏実技に苦手意識を持つ人は多い。それを克服する最も安易な手段は、「練習」と呼ばれる反復行為である。

「練習」では技能の段階を跳ばさずに丁寧な順序で、時には臨機応変に身につけていただきたい。また、既存のピアノ曲を演奏する時には常に、その作品で使われている和声に耳を傾けて、美しい和声進行を耳から学び、自らが思い浮かべられる和声の多様化を心がける事も大切である。料理人が実際に美味しいものを味わって舌を磨くように、音楽も美しい音世界を聴くことから音への感性を磨き、自らの表現力をレベルアップさせることができる。

耳から様々な和声進行を学び、和声への感性を磨くことで、実際に簡易伴奏を行う上での応用力と判断力が養われると思う。

参考文献

- 有本真紀・阪井恵・山下薫子 編著：「教員養成過程 小学校音楽科教育法」, 教育芸術社, 2008.
- 石桁真礼生・末吉保雄・丸田昭三・飯田隆・金光威和雄・飯沼信義 共著：「新装版 楽典 理論と実習」, 音楽之友社, 1965.
- 野村良雄・柴田南雄・服部幸三・大宮真琴・小泉文夫 編集顧問：「標準音楽辞典」, 音楽之友社, 1969.
- 文部科学省：「小学校学習指導要領解説 音楽編」, 教育芸術社, 平成20年.
- ウィキペディア：カノン (パッヘルベル) [https://ja.wikipedia.org/wiki/カノン_\(パッヘルベル\)](https://ja.wikipedia.org/wiki/カノン_(パッヘルベル))
- ウィキペディア：ヨハン・パッヘルベル <https://ja.wikipedia.org/wiki/ヨハン・パッヘルベル>